

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(25年2月)
—前年比で上昇が続き10%超に

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比は総合指数で10.0%、コア指数で9.6%

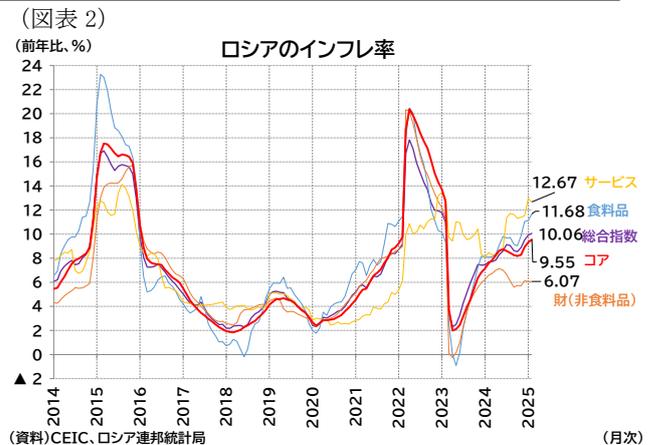
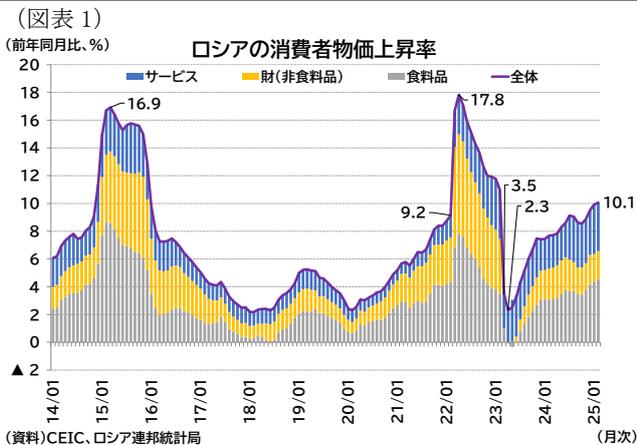
3月12日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(25年2月)】

- ・前年同月比は10.06%、市場予想¹(10.00%)よりやや上振れ、前月(9.92%)から上昇した(図表1)
- ・前月比は0.81%、市場予想(0.80%)よりやや上振れ、前月(1.23%)から減速した

【コア指数²(25年2月)】

- ・前年同月比は9.55%、前月(9.32%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は0.75%、前月(0.96%)から減速した



2. 結果の詳細:食料品の伸びが高まったことが総合指数を押し上げ

2月のロシアのインフレ率は前年比で10.06%となり、1月(9.92%)からさらに上昇し、2桁台に到達した。

インフレ率を大分類別に見ると、2月の前年比伸び率は食料品が11.68%(前月:11.13%)、財(非食料品)が6.07%(前月:6.07%)、サービスが12.67%(前月:12.95%)となり、食料品の伸び率が高まったことが全体の伸びを押し上げた。

前年比寄与度では食料品が4.3%ポイント程度、財(非食料品)が2.0%ポイント程度、サービ

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

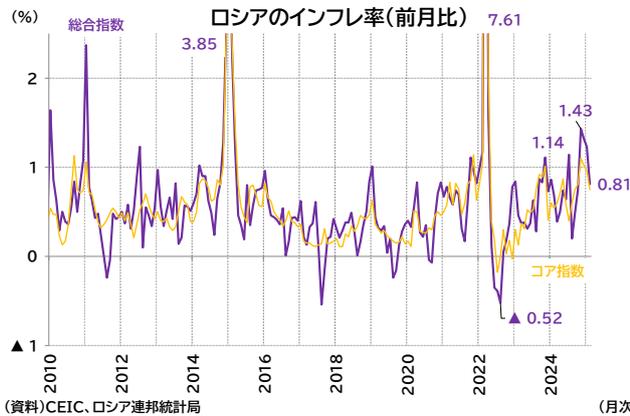
スが3.6%ポイント程度だった（図表1）。

1月の前月比伸び率は、総合指数で0.81%、コア指数で0.75%となった。前月（総合指数1.23%、コア指数0.96%）から減速したものの、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率を上回った状況が続いている（2018年の前月比伸び率は平均で総合指数が約0.35%、コア指数が約0.30%、図表3）。

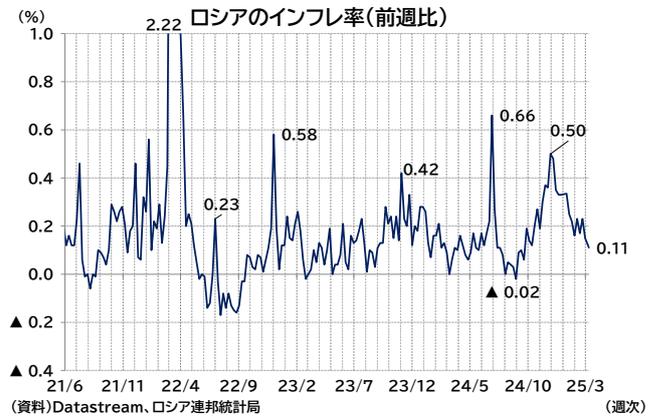
前月比伸び率を大分類で見ると食料品が1.27%（前月：1.33%）、財（非食料品）が0.26%（前月：0.42%）、サービスが0.81%（前月：2.07%）となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、最新の3月10日時点において、前週比で0.11%の上昇となった（図表4）。直近の物価上昇の勢いは弱まっていると言える。

（図表3）

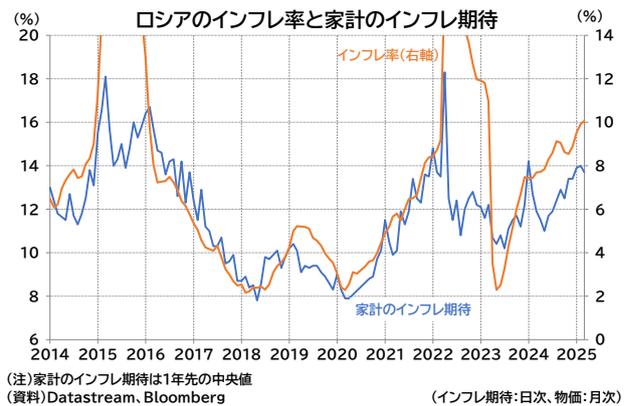


（図表4）



ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、2月は13.7%で1月からやや低下した。これまで過去の傾向（期待インフレ率≒前年比インフレ率+6%、図表5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率との乖離が拡大している状況が続いている（期待インフレ率がやや低め）。

（図表5）



本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。